

本年度の成果と今後の課題

本校では、本年度「自分の思いをすすんで表現できる児童の育成」に外国語・外国語活動・英語活動を通して取り組んできた。研究を通して次のような成果と課題が得られた。

1 研究の成果

- (1) 各学年によるレッスンプランの適正な実施により、授業者が自信をもって授業に臨めるようになった。
- (2) 授業の構造化（導入の仕方やカードによる振り返りなど、授業の基本的な流れの確立）で、不安なく活動に取り組める児童が増えた。
- (3) レッスンプランに基づいた反復練習により、自信をもって表現する児童の姿を引き出した。
- (4) オールイングリッシュによる授業を目指すことで、児童が進んで聞き取ろうとする姿勢が出てきた。同時に、日本語を使用するガイドラインを共有したことで、授業者も児童も不安なく活動に取り組めた。
- (5) ALT やデジタル音声の活用方法の認識が深まり、HRT との役割分担や発音指導の手立てが増えた。それによって児童の発話が増え、発音が向上した。
- (6) 低学年のレッスンプラン、各種ピクチャーカードが完成した。

2 今後の課題

- (1) 児童の主体性を引き出すために、必然性のある題材設定が必要である。
- (2) 必然性のある題材設定をするためには、レッスンプランや次年度から新しくなる教科書指導でも、児童の実態を見ながらアレンジしていく必要がある。
- (3) 授業者の英語力の向上が望まれる。クラスルームイングリッシュを増やしていく。
- (4) 高学年は、書く活動の時間の確保について検討する必要がある。
- (5) 単元を学習しているときにはすらすら言うことができるターゲットセンテンスも、単元を離れたとたんに忘れてしまう。その後の授業のスマールトークの中で意識的に取り入れ、既習のターゲットセンテンスを定着させていく。